



2016年3月期 第2四半期 決算説明会

2015年11月17日

南海電気鉄道株式会社

本日の内容

- 1. 2016年3月期 第2四半期決算の概要 P2
- 2. 2016年3月期の業績予想 P16
- 3. 中期経営計画「深展133計画」の進捗状況 P24
- 参考資料 P41





1. 2016年3月期 第2四半期決算の概要

2016年3月期 第2四半期決算の概要

1) 業績ハイライト

(単位:百万円・%)

	2014年9月期	2015年9月期	増減額	増減率	期初予想	増減額	増減率
営業収益	99,568	108,125	8,557	8.6	108,100	25	0.0
営業利益	14,523	17,900	3,376	23.3	13,900	4,000	28.8
経常利益	11,416	15,312	3,895	34.1	11,100	4,212	37.9
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	7,739	10,531	2,792	36.1	6,900	3,631	52.6

<主な増減理由等:前年同期比>

●営業収益

- ・2014年7月1日に連結子会社化した泉北高速鉄道グループの業績の通期寄与
- ・インバウンド旅客の増加などによる空港関連輸送の好調【当社空港線 運輸収入・輸送人員ともに過去最高】

●営業利益

- ・増収に加え、燃料費の減少などが寄与し増益【第2四半期として過去最高】

●経常利益

- ・営業増益に加え、支払利息の減少が寄与し増益【第2四半期として過去最高】

2016年3月期 第2四半期決算の概要

2) 資産、負債及び純資産の状況

(単位:百万円)

		2015年3月末	2015年9月末	増減額	主な増減理由
	流動資産	85,728	78,725	△7,003	<ul style="list-style-type: none"> ●流動資産 受取手形及び売掛金の減少 △31億円 ●固定資産 連続立体交差化工事の進捗による建設仮勘定の増 +72億円、 減価償却の進捗 △124億円 ●負債 支払手形及び買掛金の減少 △55億円、 借入金の減少 △41億円 ●純資産 親会社株主に帰属する四半期純利益 +105億円、 配当金支払 △34億円
	固定資産	823,819	825,066	1,247	
資産合計		909,547	903,792	△5,755	
負債合計		709,556	697,849	△11,707	
純資産		199,991	205,942	5,951	
負債純資産合計		909,547	903,792	△5,755	
有利子負債残高		497,209	493,032	△4,176	

2016年3月期 第2四半期決算の概要

3) キャッシュ・フローの状況

(単位:百万円)

	2014年9月期	2015年9月期	増減額	主な増減理由
営業活動による キャッシュ・フロー	13,631	16,240	2,609	●営業活動によるキャッシュ・フロー 税金等調整前四半期純利益の増+37億円
投資活動による キャッシュ・フロー	△79,818	△11,047	68,770	●投資活動によるキャッシュ・フロー (前期)泉北高速鉄道(株)の株式取得による支出 △694億円
財務活動による キャッシュ・フロー	71,587	△7,799	△79,387	●財務活動によるキャッシュ・フロー (前期)泉北高速鉄道(株)の株式取得に伴う資金調達

セグメント別の状況(2016年3月期 第2四半期)

セグメントの構成状況 (2015年9月末現在)

【連結子会社59社・非連結子会社12社・関連会社7社(うち持分法適用会社2社)】

増減(対 2015年3月末現在)

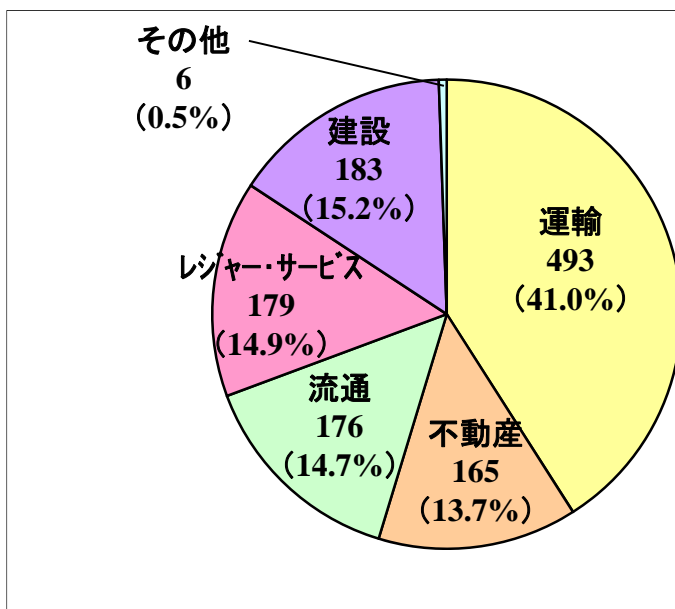
連結子会社の増加 1社: 株式会社大阪府食品流通センター

連結子会社の減少 3社: 太陽ビルサービス株式会社、南海橋本観光開発株式会社、株式会社南海大阪ゴルフクラブ

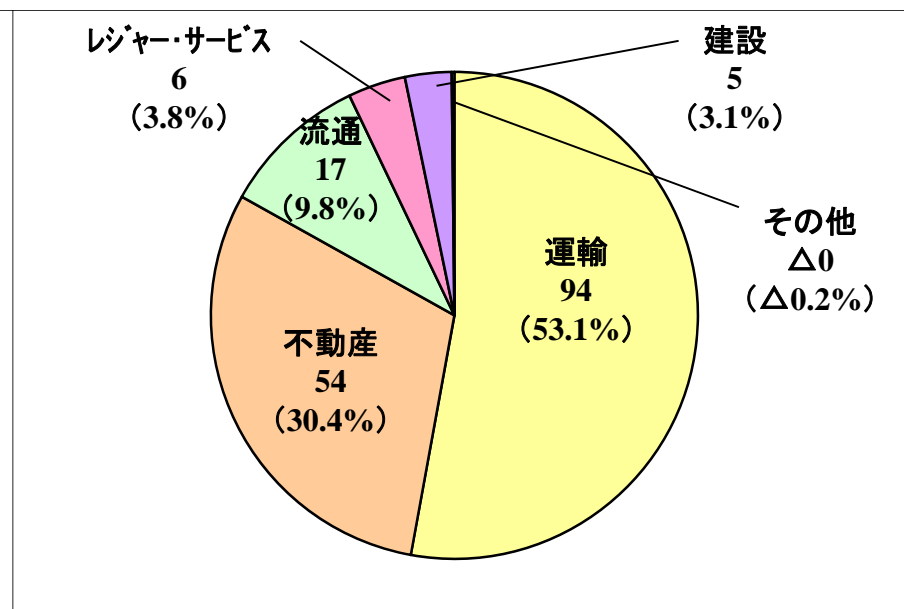
運輸業 (34社)	不動産業 (5社)	流通業 (11社)	レジャー・サービス業 (23社)	建設業 (6社)	その他の事業 (4社)
--------------	--------------	--------------	---------------------	-------------	----------------

※当社は運輸業、不動産業、流通業、レジャー・サービス業に、泉北高速鉄道株式会社は運輸業と不動産業に重複して含まれております。

営業収益 (単位:億円)



営業利益 (単位:億円)



セグメント別の状況(2016年3月期 第2四半期)

1)セグメント別営業収益

(単位:百万円・%)

	2014年9月期	2015年9月期	増減額	増減率
運 輸 業	45,540	49,359	3,819	8.4
不 動 産 業	14,384	16,548	2,163	15.0
流 通 業	15,919	17,648	1,729	10.9
レジャー・サービス業	16,355	17,984	1,628	10.0
建 設 業	15,792	18,317	2,525	16.0
そ の 他 の 事 業	495	656	161	32.7
調 整 額	△8,918	△12,389		
合 計	99,568	108,125	8,557	8.6

セグメント別の状況(2016年3月期 第2四半期)

2)セグメント別営業利益

(単位:百万円・%)

	2014年9月期	2015年9月期	増減額	増減率
運 輸 業	7,001	9,488	2,487	35.5
不 動 産 業	4,785	5,427	641	13.4
流 通 業	1,739	1,760	21	1.2
レジャー・サービス業	616	686	69	11.3
建 設 業	284	554	269	94.5
そ の 他 の 事 業	△37	△32	5	—
調 整 額	133	15		
合 計	14,523	17,900	3,376	23.3

セグメント別の状況(2016年3月期 第2四半期)

3) 運輸業の実績 (増収増益)

(単位:百万円・%)

	2014年9月期	2015年9月期	増減額	増減率	主な増減理由
鉄道事業	30,066	33,340	3,273	10.9	●鉄道事業 泉北高速鉄道の通期寄与による増収+19億円 (増益+4億円) 南海電鉄の運輸収入 増収+13億円 (うち、空港線+6億円、 高野山関連+3億円) ●バス事業 リムジンバスなど空港関連輸送の増収 高野山開創1200年記念大法会に伴う増収 増収および燃料費減(△3億円)による増益
軌道事業	734	762	27	3.8	
バス事業	12,626	13,096	470	3.7	
海運業	985	1,088	102	10.4	
貨物運送業	1,958	1,892	△66	△3.4	
車両整備業	2,318	1,854	△463	△20.0	
調整額(セグメント内)	△3,150	△2,675			
営業収益	45,540	49,359	3,819	8.4	
営業利益	7,001	9,488	2,487	35.5	
主な内訳					
鉄道事業	5,914	7,453	1,538	26.0	
バス事業	920	1,887	966	105.1	

セグメント別の状況(2016年3月期 第2四半期)

鉄道旅客収入と輸送人員表(個別)

(単位:百万円・千人・%)

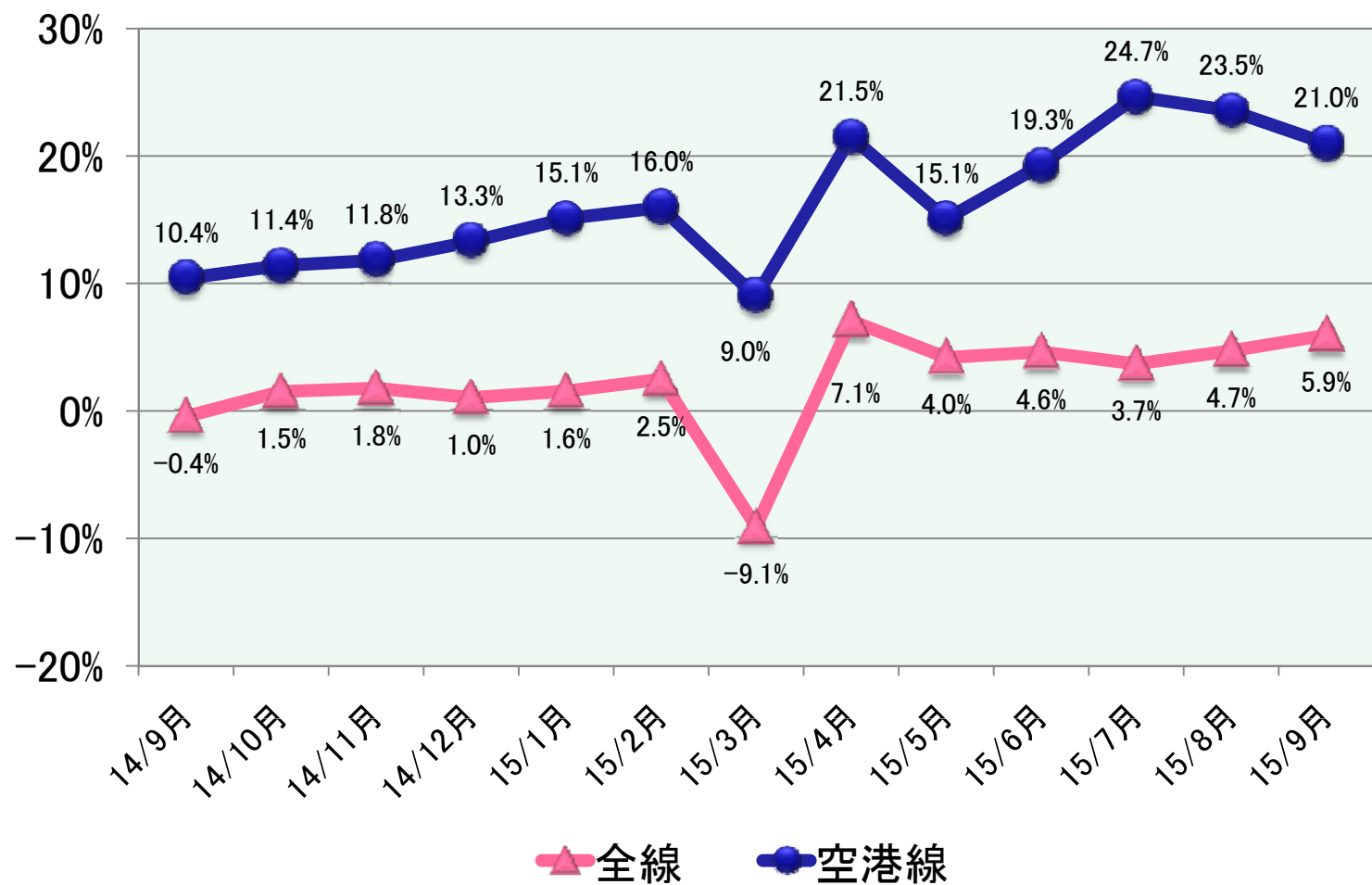
全線		2014年9月期	2015年9月期	増減率	期初予想	増減率
旅客収入	定期外	15,512	16,751	8.0	16,470	1.7
	定期	11,269	11,367	0.9	10,772	5.5
	合計	26,782	28,119	5.0	27,243	3.2
輸送人員	定期外	43,626	46,927	7.6	47,818	△1.9
	定期	71,030	71,486	0.6	67,709	5.6
	合計	114,656	118,413	3.3	115,527	2.5

(単位:百万円・千人・%)

空港線		2014年9月期	2015年9月期	増減率	期初予想	増減率
旅客収入	定期外	2,460	3,053	24.1	2,697	13.2
	定期	578	619	7.1	585	5.7
	合計	3,039	3,672	20.9	3,283	11.8
輸送人員	定期外	3,046	3,865	26.9	3,459	11.7
	定期	1,835	1,976	7.7	1,859	6.3
	合計	4,881	5,841	19.7	5,318	9.8

【参考】 鉄道旅客収入 前年同月比増減率の推移

前年同月比
増減率



セグメント別の状況(2016年3月期 第2四半期)

4) 不動産業の実績 (増収増益)

(単位:百万円・%)

	2014年9月期	2015年9月期	増減額	増減率	主な増減理由	
不動産賃貸業	10,623	12,690	2,067	19.5	●不動産賃貸業 泉北高速鉄道グループの通期寄与 増収+18億円(増益+7億円)	
不動産販売業	3,881	3,926	45	1.2		
調整額(セグメント内)	△120	△68			●不動産販売業 売上原価率の増加による減益	
営業収益	14,384	16,548	2,163	15.0		
営業利益	4,785	5,427	641	13.4		
主な内訳	不動産賃貸業	4,569	5,500	931	20.4	
	不動産販売業	254	54	△199	△78.4	

セグメント別の状況(2016年3月期 第2四半期)

5) 流通業の実績 (増収増益)

(単位:百万円・%)

	2014年9月期	2015年9月期	増減額	増減率	主な増減理由	
ショッピングセンターの経営	5,833	7,140	1,306	22.4	●ショッピングセンターの経営 泉北高速鉄道グループ(株)パンジョ他)の通期寄与 +9億円(増益+2億円) 泉ヶ丘駅前商業施設(H26.8取得)の通期寄与 +4億円(増益+1億円) なんばパークス (H27/3 リニューアルOPEN) +2億円(増益+2億円) なんばCITY(リニューアル工事中) △1億円(減益△3億円)	
駅ビジネス事業	9,806	10,728	921	9.4		
その他	1,619	1,313	△305	△18.9		
調整額(セグメント内)	△1,340	△1,533				
営業収益	15,919	17,648	1,729	10.9		
営業利益	1,739	1,760	21	1.2		
主な内訳	ショッピングセンターの経営	1,125	1,170	44	3.9	●駅ビジネス事業 泉北高速鉄道グループ(泉鉄産業株)の通期寄与 +3億円 コンビニ新店舗開業による増収 +3億円
	駅ビジネス事業	599	597	△1	△0.3	

セグメント別の状況(2016年3月期 第2四半期)

6) レジャー・サービス業の実績 (増収増益)

(単位: 百万円・%)

	2014年9月期	2015年9月期	増減額	増減率	主な増減理由
遊園事業	816	823	6	0.7	●ビル管理メンテナンス業 設備工事収入の増加による増収、 増益
旅行業	1,006	1,022	16	1.6	
ホテル・旅館業	656	652	△3	△0.5	
ボートレース 施設賃貸業	2,264	2,286	21	1.0	
ビル管理メンテナンス業	9,162	10,711	1,548	16.9	
印刷業	346	388	41	11.9	
広告代理業	535	571	36	6.7	
その他	2,631	2,667	35	1.4	
調整額(セグメント内)	△1,064	△1,138			
営業収益	16,355	17,984	1,628	10.0	
営業利益	616	686	69	11.3	
主な 内訳	ビル管理 メンテナンス業	242	324	81	

セグメント別の状況(2016年3月期 第2四半期)

7) 建設業の実績 (増収増益)

(単位:百万円・%)

	2014年9月期	2015年9月期	増減額	増減率	主な増減理由
建設業	15,803	18,324	2,521	16.0	完成工事高増加による増収、増益
調整額(セグメント内)	△10	△6			
営業収益	15,792	18,317	2,525	16.0	
営業利益	284	554	269	94.5	

8) その他の事業の実績 (増収増益)

(単位:百万円・%)

	2014年9月期	2015年9月期	増減額	増減率	増減理由
その他	497	658	160	32.3	
調整額(セグメント内)	△2	△1			
営業収益	495	656	161	32.7	
営業利益	△37	△32	5	—	



2. 2016年3月期の業績予想

2016年3月期の業績予想

1) 業績ハイライト

(単位:百万円)

	2016年3月期			主な差異理由 (B-A)	2015年 3月期 実績(C)	差異 (B-C)
	期初予想 (A)	修正予想 (B)※1	差異 (B-A)			
営業収益	216,700	218,100	1,400	●営業収益 主に運輸業、レジャー・ サービス業の増収	210,995	7,104
営業利益	26,600	29,800	3,200		28,118	1,681
経常利益	20,900	24,300	3,400	●営業利益【過去最高】 主に運輸業の増益	22,001	2,298
親会社株主に帰属する当期純利益	12,400	15,400	3,000		17,467	△2,067
投資額	36,400	36,000	△400	●経常利益【過去最高】 営業増益に加え、支払利息の減少が寄与し増益	26,655	9,344
減価償却費	25,600	25,700	100		23,699	2,000
EBITDA※2	52,200	55,500	3,300	●有利子負債残高 増益に伴う営業CF増加による減少	51,817	3,682
有利子負債残高	495,400	494,900	△500		497,209	△2,309
有利子負債残高 ／EBITDA倍率	9.5倍	8.9倍			9.6倍	

※1 修正予想(B)は2015年10月30日時点の数値

※2 EBITDA=営業利益+減価償却費

2016年3月期の業績予想

2) セグメント別営業収益

(単位:百万円)

	2016年3月期			主な差異理由 (B-A)	2015年 3月期 実績(C)	差異 (B-C)
	期初予想 (A)	修正予想 (B)※1	差異 (B-A)			
運 輸 業	95,900	98,100	2,200	●運輸業 鉄道事業+17億円 (空港・高野山関連輸送 の好調)	93,574	4,525
不 動 産 業	33,600	33,400	△200		バス事業+4億円 (リムジンバス利用者増)	32,323
流 通 業	34,500	34,600	100	●レジャー・サービス業 ビル管理メンテナンス事業 +6億円 (工事収入の増加)	37,019	280
レジャー・ サービス業	36,600	37,300	700		39,113	1,986
建 設 業	41,700	41,100	△600	●建設業 完成工事高の減少	1,939	△139
その他の事業	1,800	1,800	0		△26,831	
調 整 額	△27,400	△28,200				
合 計	216,700	218,100	1,400		210,995	7,104

※1 修正予想(B)は2015年10月30日時点の数値

2016年3月期の業績予想

3) セグメント別営業利益

(単位:百万円)

	2016年3月期			主な差異理由 (B-A)	2015年 3月期 実績(C)	差異 (B-C)
	期初予想 (A)	修正予想 (B)※1	差異 (B-A)			
運 輸 業	13,000	15,900	2,900	●運輸業 鉄道事業+22億円 (増収による増益)	12,937	2,962
不 動 産 業	8,500	8,700	200		8,983	△283
流 通 業	2,900	2,900	0	バス事業+7億円 (増収および燃料費減)	3,386	△486
レジャー・ サービス業	1,400	1,400	0		1,817	△417
建 設 業	900	900	0	●不動産業 不動産賃貸業+3億円 (サービスアパートメント、ス イスホテルほか好調による 増益)	1,081	△181
その他の事業	100	100	0		182	△82
調 整 額	△200	△100			△270	
合 計	26,600	29,800	3,200		28,118	1,681

※1 修正予想(B)は2015年10月30日時点の数値

2016年3月期の業績予想

4) セグメント別投資額・EBITDA

(単位:百万円)

	投資額				EBITDA		
	2016年3月期			修正予想額 主な内訳	2016年3月期		
	期初予想 (A)	修正予想 (B)※1	差異 (B-A)		期初予想 (A)	修正予想 (B)※1	差異 (B-A)
運輸業	15,200	15,500	300	<収益拡大投資 116億円> ・なんばエリア増収 36億円 新南海会館ビル建替、なんば CITYリニューアル等 ・成長投資 46億円 物流施設隣接土地取得等 ・沿線エリア活性化等 34億円 和歌山市駅、泉ヶ丘等 <安全・更新投資 244億円> ・鉄道関連工事 93億円 車両新造、駅舎耐震工事等 ・不動産・流通既存施設工事 68億円 堺東ビル耐震工事等 ・その他 バス車両更新等 <M&A 30億円> 大阪府食品流通センター株式取得等	26,800	29,500	2,700
不動産業	15,400	14,600	△800		14,400	14,700	300
流通業	3,400	3,600	200		7,000	7,100	100
レジャー・サービス業	2,900	3,100	200		2,800	3,100	300
建設業	100	100	0		1,000	1,000	0
その他の事業	0	0	0		100	100	0
調整額	△600	△900			△100	0	
合計	36,400	36,000	△400		52,200	55,500	3,300
M & A	2,800	3,000	200				
M & A含む計	39,200	39,000	△200				

※1 修正予想(B)は2015年10月30日時点の数値

2016年3月期の業績予想

5) 運輸業 鉄道旅客収入と輸送人員表(個別)

(単位:百万円・千人・%)

全線		2015年3月期 実績	対前年 増減率	2016年3月期 期初予想	対前年 増減率	2016年3月期 修正予想※1	対前年 増減率
旅客収入	定期外	31,228	1.0	33,089	6.0	33,625	7.7
	定期	22,244	△1.6	21,164	△4.9	22,265	0.1
	合計	53,473	△0.1	54,254	1.5	55,891	4.5
輸送人員	定期外	88,442	△0.4	96,242	8.8	94,746	7.1
	定期	138,589	△1.0	131,371	△5.2	138,500	△0.1
	合計	227,031	△0.8	227,613	0.3	233,246	2.7

(単位:百万円・千人・%)

空港線		2015年3月期 実績	対前年 増減率	2016年3月期 期初予想	対前年 増減率	2016年3月期 修正予想※1	対前年 増減率
旅客収入	定期外	5,116	15.0	5,684	11.1	6,368	24.5
	定期	1,156	0.8	1,172	1.4	1,212	4.9
	合計	6,272	12.1	6,856	9.3	7,580	20.9
輸送人員	定期外	6,403	15.5	7,266	13.5	8,042	25.6
	定期	3,673	0.5	3,723	1.4	3,861	5.1
	合計	10,076	9.5	10,989	9.1	11,903	18.1

※1 修正予想は2015年10月30日時点の数値

【参考】泉北高速鉄道グループの連結子会社化による影響

(1) 業績に与える影響

2015年9月期実績、2016年3月期修正予想に含まれる泉北高速鉄道グループの業績は、次のとおりです。

(単位:百万円)

		2015年9月期 実績	2016年3月期 修正予想
運輸業	営業収益	3,922	7,676
	営業利益	855	946
不動産業	営業収益	3,345	6,673
	営業利益	1,408	2,547
流通業	営業収益	2,613	5,159
	営業利益	375	720
合計	営業収益	9,881	19,509
	営業利益	2,639	4,214

※金額は内部取引消去前の数値を記載しております。

※営業利益には、のれん償却額を反映しております。

2015年9月期実績 運輸業33、不動産業141、 2016年3月期予想 運輸業66、不動産業282

【参考】泉北高速鉄道グループの連結子会社化による影響

(2) 通期寄与による影響

2015年3月期の第2四半期において連結子会社化した泉北高速鉄道グループの業績が、2016年3月期は第1四半期より通期で寄与するため、増収・増益の要因となっており、その影響額は次のとおりです。

(単位:百万円)

		2015年9月期 実績への影響額
運輸業	営業収益	1,989
	営業利益	428
不動産業	営業収益	1,806
	営業利益	658
流通業	営業収益	1,293
	営業利益	180
合計	営業収益	5,090
	営業利益	1,267

※金額は内部取引消去前の数値を記載しております。

※営業利益には、のれん償却額を反映しております。

運輸業16、不動産業100

※影響額には、2015年4月に連結子会社化した大阪府食品流通センターの数値も反映しております。



3. 中期経営計画「深展133計画」の 進捗状況

深展133計画の基本方針と数値目標

<基本方針>

1. 泉北関連事業の強化
2. 関空・インバウンド事業の拡大
3. なんばエリアの求心力向上

<継続して取り組む重点項目>

1. 沿線エリアの魅力創造

2. グループ経営基盤の強化

<数値目標>

①連結営業利益	300億円
②連結有利子負債残高／EBITDA倍率	8倍台
※参考指標 ROE	7.1%

各基本方針において着実に成果を出すとともに、次期中計以降に注力する新たな事業領域を明確化していく。

2016年3月期 第2四半期の総括及び今後の方向性

2016年3月期第2四半期総括

- ◆インバウンド旅客の増加によって空港線中心に想定以上の好業績を実現。
- ◆泉北関連事業において、物流事業拡大の下地づくりを実施。
- ◆新南海会館ビル(仮称)(以下:新南海会館ビル)建替の事業計画の変更を決定、本格的な工事に着手。

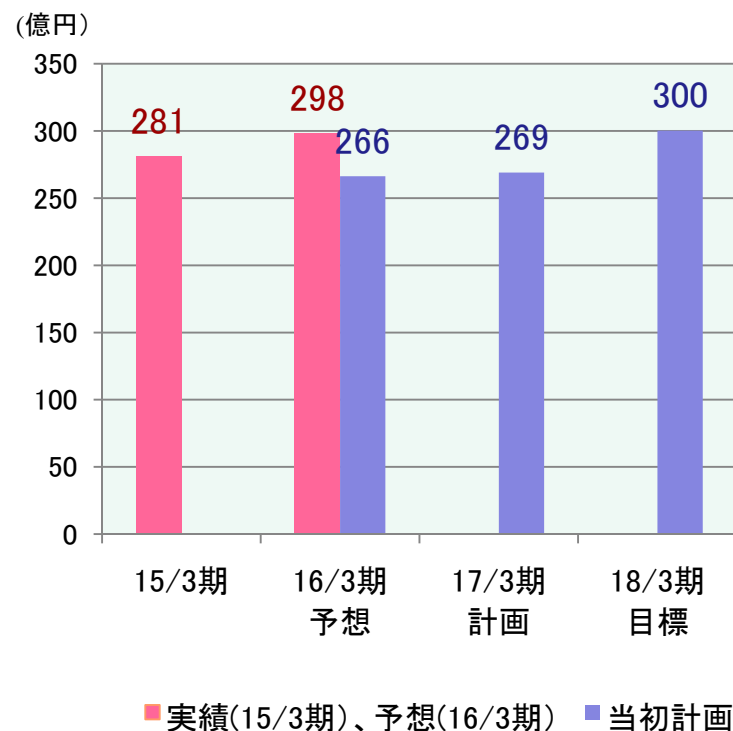
今後の方向性

- ◆運輸業や流通業を中心にインバウンド需要の更なる取り込み施策の実施。
- ◆高野線・泉北線ダイヤ改正による輸送シェアの拡大。
- ◆新南海会館ビル開業に向け、なんばのブランド価値を高める良質なテナントの誘致により、エリアポテンシャルの向上に努める。
- ◆中長期的な南海グループ成長戦略の検討。

定量目標の進捗

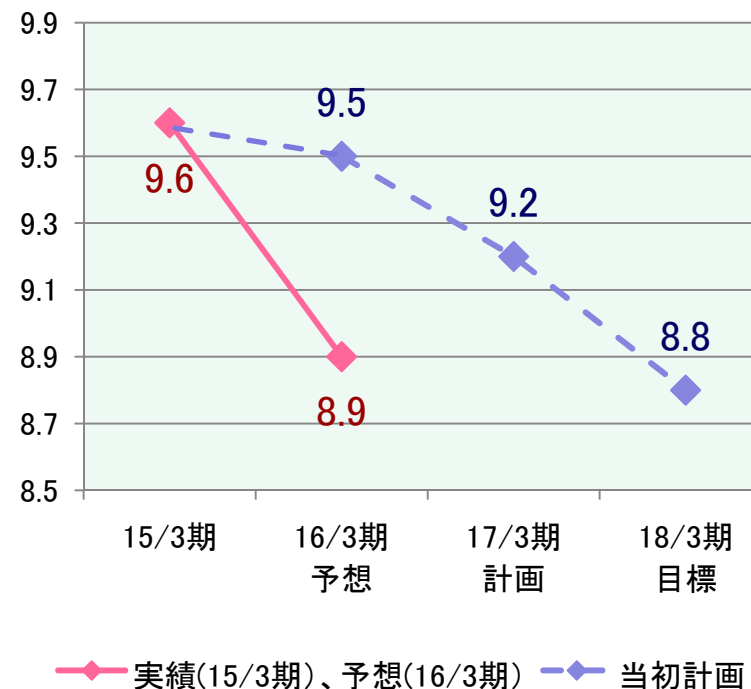
連結営業利益

インバウンド輸送の拡大を受け、
2018年3月期目標をほぼ達成する見込み。



連結有利子負債／EBITDA倍率

有利子負債残高がほぼ横ばいだが、
収益の拡大により、同様に目標を
ほぼ達成する見込み。



2016年3月期 基本方針別の進捗

	成果	今後の方向性
泉北関連事業	<ul style="list-style-type: none"> ・値下げにより当社線シェアを拡大 ・(株)大阪府食品流通センター、東大阪流通センター隣接地を買収 ・北大阪の物流施設管理棟建替着手 	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイヤ改正による輸送シェアの拡大を軸としたシナジー創出策の実施 ・物流施設高度化計画の策定、推進
関空・インバウンド事業	<ul style="list-style-type: none"> ・インバウンド旅客の増加継続 ・鉄道シェア、当社線シェアの拡大 ・なんばCITY、なんばパークスでの免税カウンター設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・駅、列車のサービス機能の強化 ・鉄道利用促進に向けた販路・販売戦略の強化 ・なんばエリアを中心に収益機会の拡大
なんばエリア事業	<ul style="list-style-type: none"> ・新南海会館ビル建替計画の見直し ・なんばパークスリニューアルにより増収増益を確保 ・なんばCITYリニューアル工事に着手 	<ul style="list-style-type: none"> ・新南海会館ビルのリーシング強化 ・なんばCITYリニューアルの推進

泉北関連事業の強化(1/2)

泉北エリアの活性化と収益向上(輸送サービスの利便性・快適性向上)

2016年3月期第2四半期

○運賃値下げ(15年3月)の影響

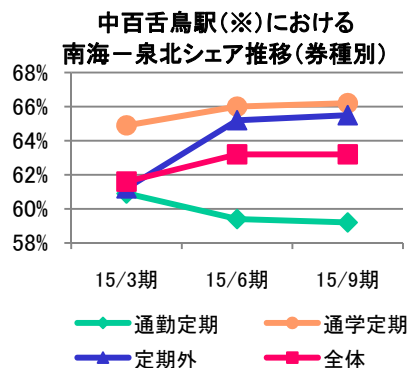
- ・想定したほどの減収は発生せず
- ・中百舌鳥駅(※)における地下鉄からの転移増加

(単位:億円)

	期初予想	修正予想	増減
定期外	18	△ 1	△ 19
乗割拡大	△ 5	△ 5	0
定期からの転移	22	3	△ 19
他社線からの転移	1	2	1
定期	△ 26	△ 5	21
通学定期値下げ	△ 2	△ 2	△ 0
定期外への転移	△ 24	△ 3	21
合計	△ 8	△ 6	2

○ダイヤ改正(15年12月)の実施決定

- ・特急の導入、区間急行の増発
- ・女性専用車両の導入



	特急	区間急行
停車駅	難波・新今宮・ 天下茶屋 ～ 泉ヶ丘以南	難波・新今宮・ 天下茶屋・堺東 ～ 深井以南
運転本数	0本⇒13本	4本⇒54本

※中百舌鳥駅にて南海高野線・泉北線が接続、大阪市営地下鉄御堂筋線への乗換が可能(P.42 沿線マップ参照)

今後の取組み

- ・鉄道とバスの連携強化(接続性向上、バス路線の見直し)
- ・ダイヤ改正を契機としたプロモーションによる、運賃値下げ・利便性向上の訴求
- ・泉ヶ丘駅前施設のリニューアル推進と近畿大学移転(2023年)を見据えた活性化計画の検討

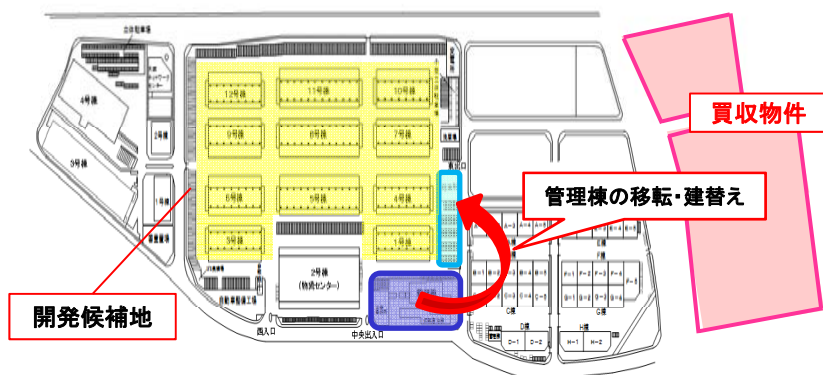
泉北関連事業の強化(2/2)

グループシナジー(物流事業の収益基盤向上、効率化の推進)

2016年3月期第2四半期

○北大阪流通センター

- ・隣接地に約5万㎡の土地を取得(15年4月)
- ・管理棟の縮小移転により開発用地創出(16年9月竣工、延床面積1,821㎡、事業費約9億円)



○東大阪流通センター

隣接地に約4千㎡の土地取得(16年3月)を決定



今後の取組み

- ・開発計画の検討深度化(計画策定、テナント候補の選定、需給環境の見極め等)
- ・東大阪流通センター周辺での更なる開発用地の探索

泉北関連事業の強化 進捗

数値目標の進捗状況 基準値を上回る

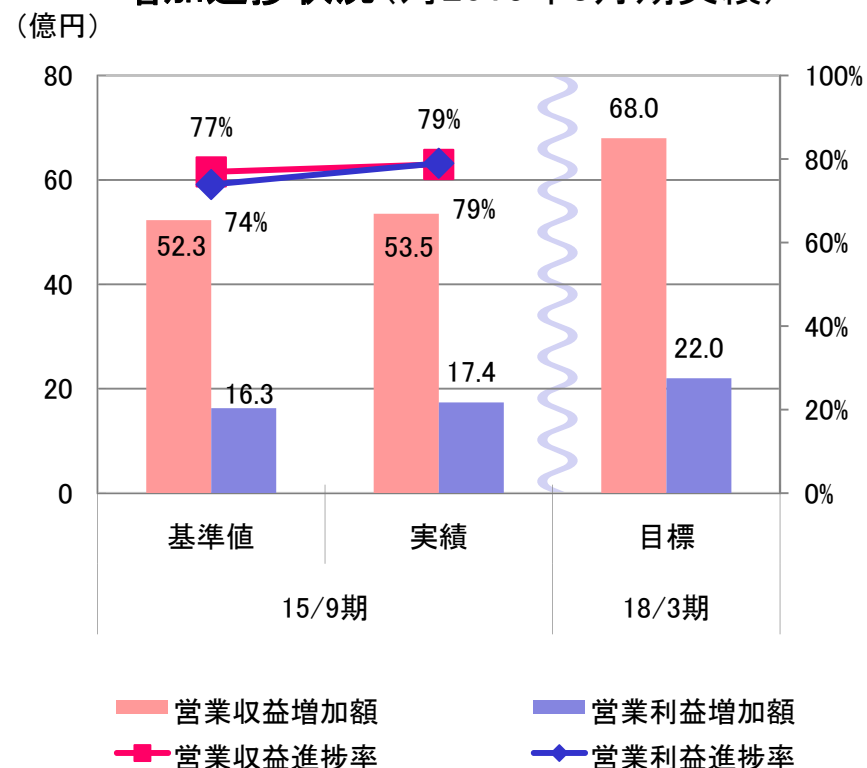
目標数値

泉北関連事業※1 営業収益
2015年3月期実績※2 2018年3月期目標
154億円 ⇒ 222億円
68億円 増収

泉北関連事業※1 営業利益
2015年3月期実績※2 2018年3月期目標
42億円 ⇒ 64億円
22億円 増益

※1 泉北関連事業
泉北高速鉄道グループ事業(鉄道事業、物流事業、流通事業)、
南海電鉄鉄道事業(泉北高速との相互直通運転分)、泉ヶ丘駅前商業施設等
※2 15年3月期実績では、泉北高速鉄道グループを第2四半期より連結子会社化

泉北関連事業 営業収益・営業利益
増加進捗状況(対2015年3月期実績)

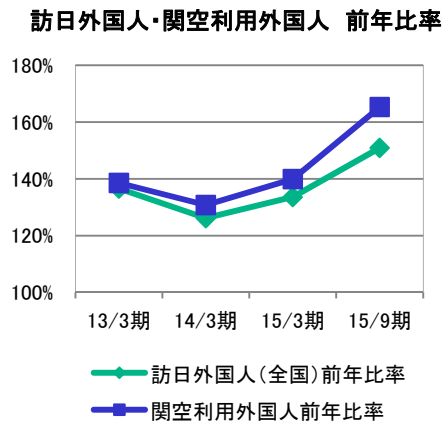


関空・インバウンド事業拡大(1/2)

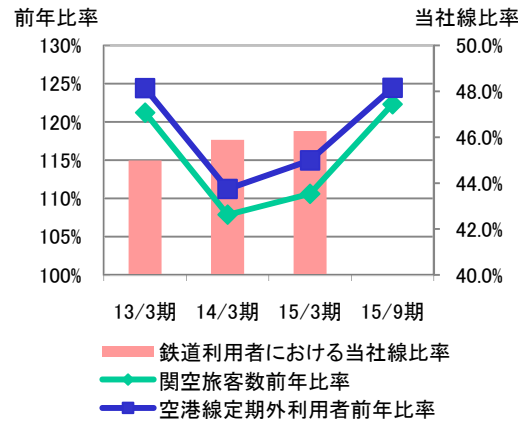
関空⇄ななばエリアへの送客

2016年3月期第2四半期

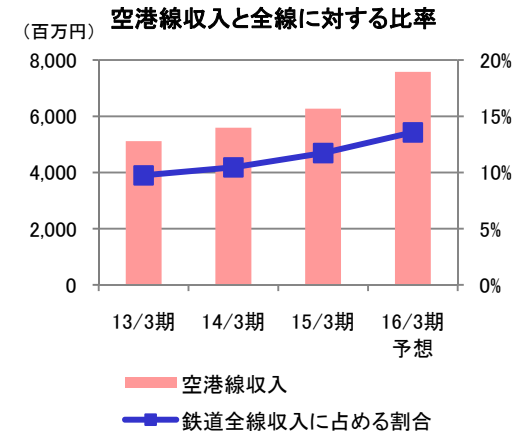
○関西空港利用外国人の増加
全国の訪日外国人の増加率を上回る



○当社空港線の利用者増加
関空利用者数の増加率を上回る



○当社空港線収入の増加
鉄道全線収入に占める割合も拡大



今後の取組み

- ・駅・列車の多言語対応、WiFi整備など、便利で快適な環境整備の促進
- ・航空会社や観光局、自治体との連携強化、海外AGTへの営業やWEB販売拡充

出典: 日本政府観光局、近畿運輸局、新関西国際空港株の資料を基に当社作成

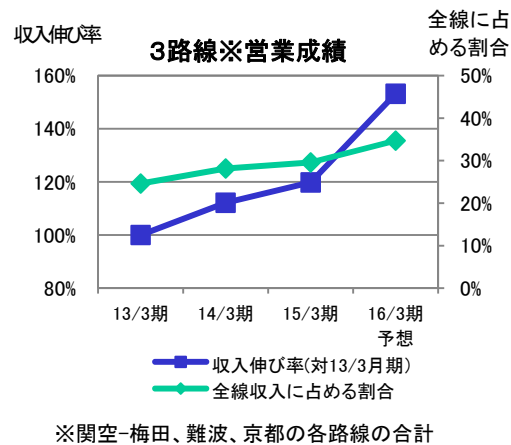
関空・インバウンド事業拡大(2/2)

訪日外国人観光客おもてなし事業

2016年3月期第2四半期

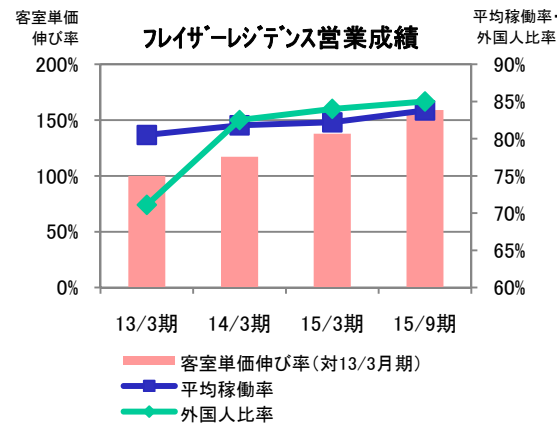
○リムジンバスが好調

梅田、難波、京都線が
インバウンド需要により増収



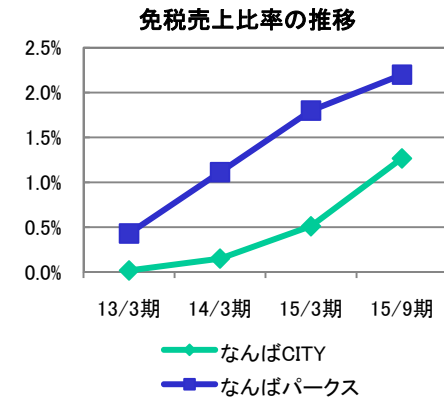
○フレイザーレジデンス南海大阪が好調

客室単価、平均稼働率、外国人比率が上昇



○SCでの免税売上比率向上

なんばパークス、なんばCITYに
免税カウンターを設置(15年7・10月)

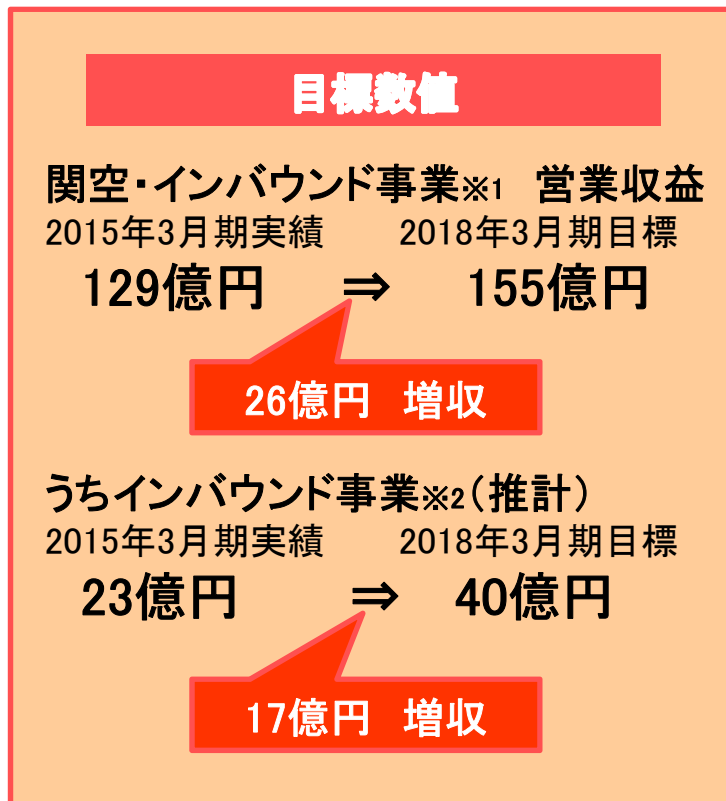


今後の取組み

なんばエリアを中心としたショッピング、宿泊、その他サービス機能の強化、拡充
(集客力のあるテナント誘致、新規サービスの展開等)

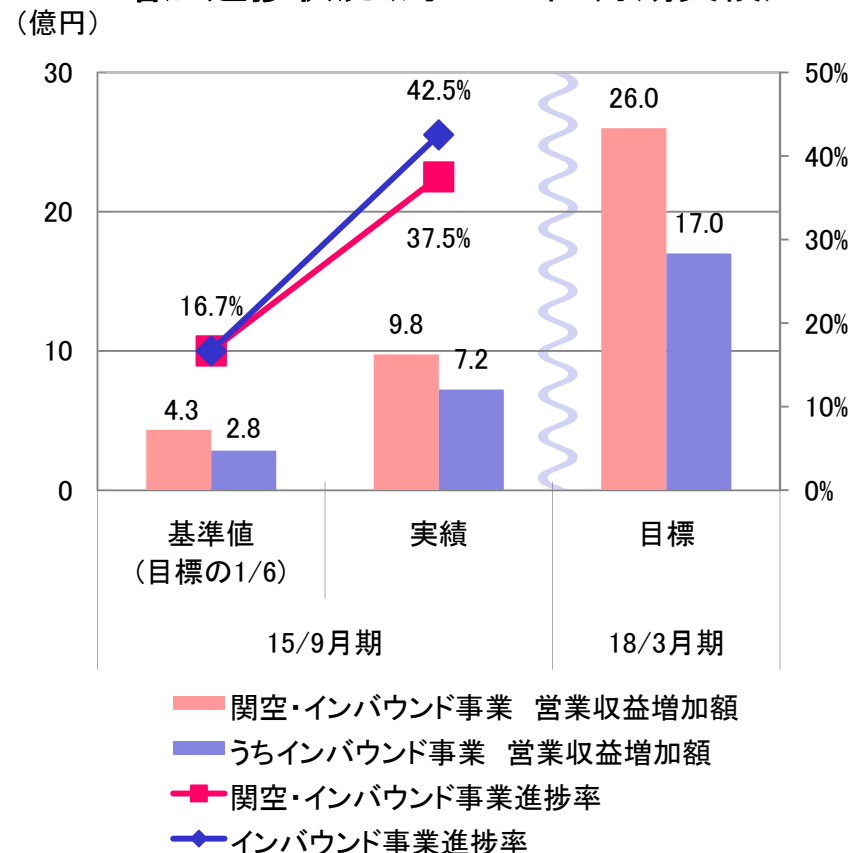
関空・インバウンド事業拡大 進捗

数値目標の進捗状況 基準値を大きく上回る



※1 関空・インバウンド事業
 鉄道事業(空港線)、リムジンバス事業、関空島内バス事業、流通事業、
 サービスアパートメント事業、関空島内設備管理・施設運営受託事業等
 ※2 インバウンド事業
 上記のうち外国人による収益(当社推計)

関空・インバウンド事業 営業収益
 増加進捗状況(対2015年3月期実績)



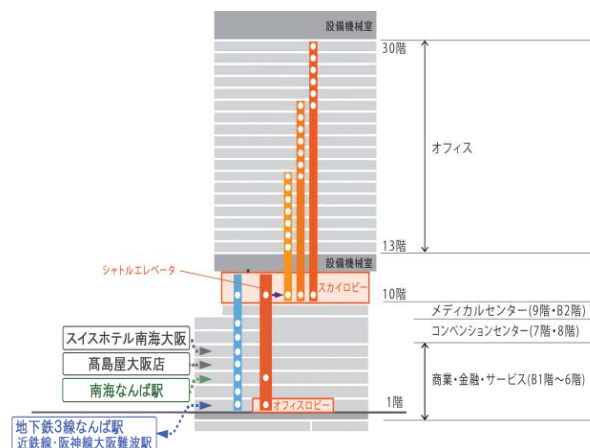
なんばエリアの求心力向上(1/2)

新南海会館ビル建替プロジェクトの推進

2016年3月期第2四半期

○新南海会館ビル計画概要

- ・最高水準の耐震&BCP機能、閑空直結の立地、先進・予防医療と都市型コンベンション機能等を装備
- ・オフィスフロア追加、工事単価の上昇を含め投資額440億円に変更



建築概要	
階数	地上30階 地下2階
最高高さ	約148m
建物用途	オフィス、医療施設、ホール・カンファレンス、商業系施設、金融系施設 他
延床面積	約84,000㎡
竣工予定	2018年9月
総事業費	約440億円
想定収支	収益 約36億円、EBITDA 約28億円



今後の取組み

- ・なんばエリアの価値を向上(企業ブランド、経済効果)させるテナントの誘致
- ・工事スケジュールの遵守

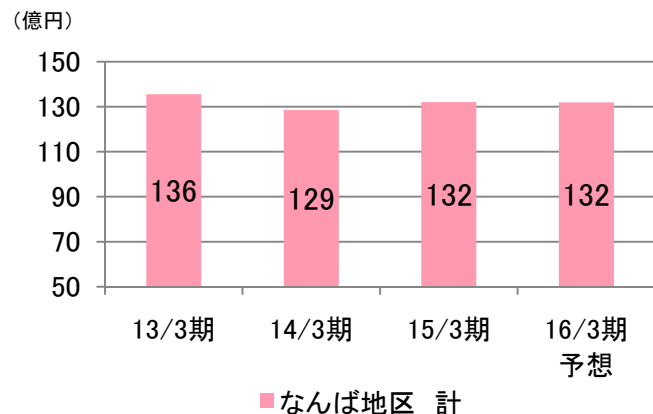
なんばエリアの求心力向上(2/2)

なんばエリアの魅力向上

2016年3月期第2四半期

○なんば賃貸ビル収入

会館ビル解体による減収から回復基調

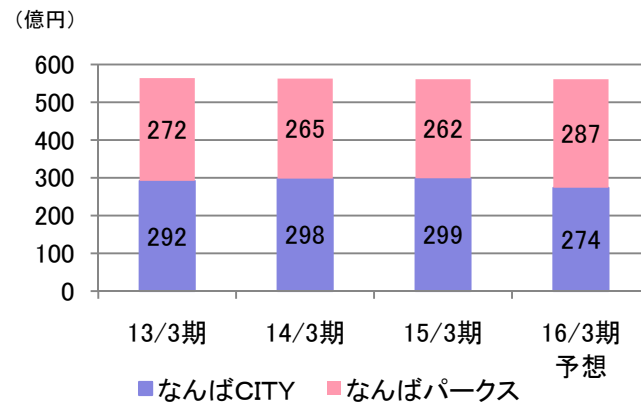


○なんば商業売上

なんばCITYリニューアル(※)に伴い一時的に減収

※本館B2階・南館約100店舗(全体の約40%)

16年3・4月オープン(一部15年10月先行)、投資額約25億円



今後の取組み

- ・賃料水準・稼働率の継続的な維持向上
- ・なんばCITYリニューアルによる鮮度維持、インバウンド旅客をターゲットとしたフロア構成による集客力の向上

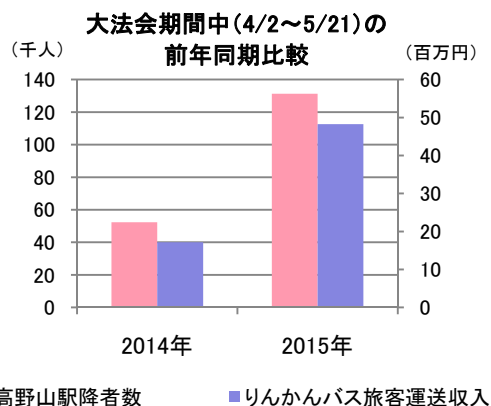
沿線エリアの魅力創造

沿線各エリアの魅力度向上、各駅周辺開発計画の推進

2016年3月期第2四半期

○高野山開創1200年大法会効果

鉄道・バスを中心に増収増益



○和歌山市駅活性化計画

・市街地再開発事業前提に計画を策定中
・オフィスビル、図書館、商業・集客施設で構成



○情報発信、プロモーション

・映画スターウォーズと特急ラピートのコラボ
・九度山と大河ドラマ「真田丸」のPR



© TM Lucasfilm Ltd.



今後の取組み

- ・高野山開創1200年に続き、大河ドラマ「真田丸」と連携した九度山周辺での観光振興
- ・和歌山市駅の活性化計画を決定、和歌山市との協業による再開発計画の推進
- ・映画スターウォーズとタイアップした特急ラピートの運行とインバウンドへの波及

グループ経営基盤の強化(1/2)

経営資源の重点配分

2016年3月期第2四半期

○投資計画＜ 3か年計 1,250億円＞

前中計と比べ、安全・安心の向上を図るため投資額の水準を引き上げ
加えて、新南海会館ビル建替工事をはじめとした収益拡大案件にも資源を投入する

	投資額(3年間)	主な内容
収益拡大投資	約670億円	<ul style="list-style-type: none">・なんばエリア増収 330億円 新南海会館ビル建替工事、なんばCITYリニューアル等・成長投資 200億円 物流事業関係、賃貸物件取得等・沿線エリア活性化等 100億円 和歌山市駅活性化、泉ヶ丘駅前施設リニューアル等・M&A 40億円 大阪府食品流通センター等
安全・更新投資	約580億円	<ul style="list-style-type: none">・鉄道関連工事 250億円 車両新造、高野線PTC導入、駅・高架橋耐震工事等・不動産・流通既存施設工事 150億円 なんばエリアSC・賃貸ビル改修工事等・その他 180億円

今後の取組み

- ・安全・更新投資、およびなんばエリア・沿線エリア等の収益拡大投資を着実に推進
- ・成長投資につき、案件の選択と集中を意識しつつ更なる具現化に向け取り組む

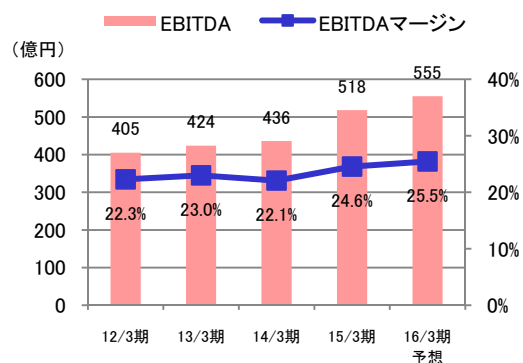
グループ経営基盤の強化(2/2)

財務体質の継続的改善

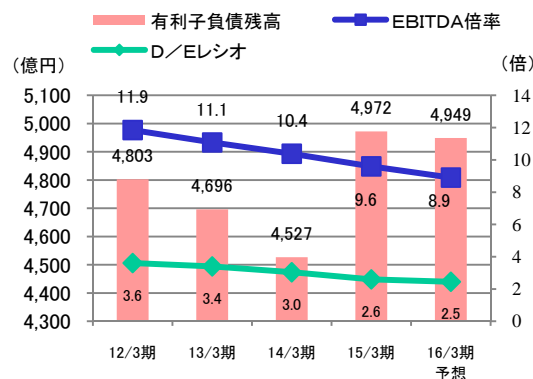
2016年3月期第2四半期

○財務指標等の推移

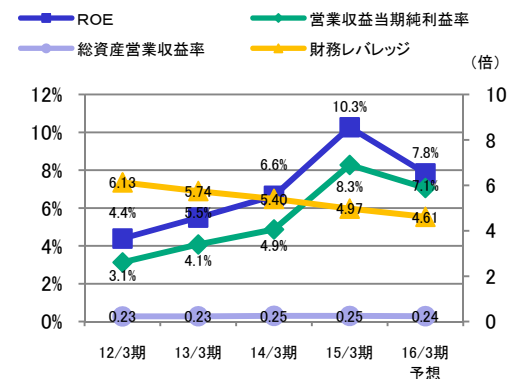
・収益性は同業内で最高水準



・財務体質は着実に改善



・資本効率についても同時に改善



※以下の仮定に基づき計算
 16/3期末総資産=15/9期末総資産
 16/3期末自己資本=15/9期末自己資本+(16/3期純利益予想-15/9期純利益)

今後の取組み

- ・利益水準の維持向上とキャッシュフロー経営の徹底により、財務指標の一層の改善を目指す
- ・改善の見込めない不採算事業について抜本的な改善策を策定・実施していく

まとめ

- 2016年3月期は、想定以上の空港線の好調や電力料金値上げの抑制、退職金費用の減等の外部要因により増収増益を確保できる見込み。
- これを受け、施設修繕や安全投資を計画通り実施していく。
- 加えて、物流事業の収益基盤向上や拡大するインバウンド関連の収益機会獲得等の成長投資の具体化に注力する。
- 一方で中国経済の減速や物流事業の過熱感、建設コストの高止まり等の懸念材料の動向にも注視していく。
- 併せて、新南海会館建替完了後の成長戦略について、物流事業の成長加速、難波や沿線での新たな不動産開発等を軸としつつ、新たな成長領域への進出を検討していく。

	2016年3月期 見込	2018年3月期 目標
営業利益	298億円	300億円
有利子負債残高／EBITDA倍率	8.9倍	8倍台
【参考】ROE	7.8%	7.1%



参考資料

【参考】沿線マップ



【参考】物流施設マップ

北大阪流通センター



東大阪流通センター



IRのお問い合わせ先

南海電気鉄道株式会社

〒556-8503 大阪市浪速区敷津東2-1-41

経営政策室 経営企画部(IR担当)

TEL:06-6644-7105 FAX:06-6644-7108

URL:<http://www.nankai.co.jp/>

本資料は投資勧誘を目的とした資料ではありません。あくまでも参考資料であり、正確な決算数値等は決算短信・有価証券報告書等をご参照ください。本資料で記述しております業績予想及び将来予想は、現時点で入手可能な情報に基づいて算定しておりますが、需要動向などの業況の変化、物価変動等、多分に不確実要素を含んでおります。そのため、実際の業績は、様々な要因の変化により業績予想と乖離する場合がありますので、ご承知おきいただきますようお願いいたします。